



芳野小だより

《かしこい子 やさしい子 たくましい子》

川越市立芳野小学校
学校だより 第6号
令和7年9月1日
川越市鴨田331
電話 049-222-1264
fax 049-229-1219

夏休みが終わり、芳野小学校に子どもたちの明るい笑顔と元気な声が戻ってきました。

今年の夏は、猛暑を乗り越えて、酷暑や炎暑などとも表現されるように、今までの記録をはるかに超える暑さとなっています。9月も35度を超える日がありそうで、引き続き熱中症対策が必要です。そして、いわゆる地球温暖化が暑さの主原因であるとする、本気で私たちの行動を変えていかないといけない時期になっているのかもしれません。

さて、本日から2学期がスタートします。心を切り替えて、勉強に運動に取り組んでいく初日となります。そこで、東井 義雄さんの「心のスイッチ」という詩を紹介します。

心のスイッチ

東井 義雄

人間の目は、ふしぎな目 / 見ようという心がなかったら、見えても見えない
人間の耳は、ふしぎな耳 / 聞こうという心がなかったら、聞いていても聞こえない
おなじように先生の話聞いていても / ちっとも聞こえない人がある。
ほんとうにそうだ、と 腹の底まで聞く人もある。
おなじように学校に来ていても、 / ちっともえらくならない人がある。
毎日、ぐんぐんえらくなっていく人もある。
今までみんなから、つまらない子だと思われていた子でも
心にスイッチがはいると、急にすばらしい子になる。
心のスイッチが、人間をつまらなくもし、 / すばらしくもしていくんだ。
電灯のスイッチが、家の中を明るくもし、暗くもするように

まさに、今日は、子どもたちの「心のスイッチ」が入る日です。でも、もしかしたらスイッチが入らない子どももいるかもしれません。スイッチさえ入ればすばらしくなっていくのに、心のスイッチを押さないでいると人生をつまらなくしてしまいます。

では、どうしたら心のスイッチが入るのでしょうか。それは、人のせいにはしないことです。心のスイッチは一人一人の心の中であって、自分でしか押せないスイッチなのです。

私は、子どもたちが大人になったときに、もう一度やり直したい、そんな後悔をしないように、今を精一杯生きてほしいと思います。そのためにも、心のスイッチを入れましょう。そして、心のスイッチが入ったら、めあてや目標に向かって、一步ずつ自分のペースで歩み続けましょう。

2学期も、心にスイッチが灯った芳野っ子が、キラキラな笑顔で活躍する姿をたくさん見られることを、大いに期待しています。

(校長 生駒 義郎)